



SUZUKA
NATIONAL
HOSPITAL

鈴鹿の風

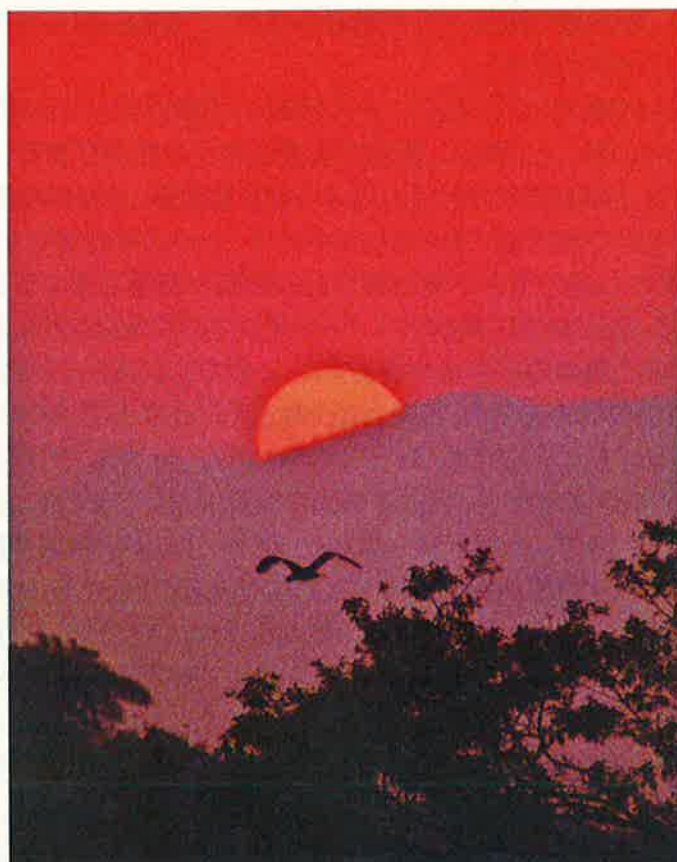
2010. 1

第 8 号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



撮影者：院長 小長谷正明

Contents

- | | | | |
|---|---|-------------------|-------------------------------|
| 1 | ■ | ごあいさつ | 明けましておめでとうございます |
| 2 | ■ | トピックス① | 院内保育所のご紹介 |
| 3 | ■ | トピックス② | 塩田賞・ベストポスター賞を受賞しました!!! |
| 4 | ■ | 看護だより | 7病棟の紹介 |
| 5 | ■ | 療育通信
平成オタクコラム | 3病棟における「朗読療育」の取り組み
～国際学会編～ |
| 6 | ■ | Remudy(レムディ) | 筋ジストロフィー登録システムRemudyについて |
| 7 | ■ | 外来診察担当表／交通案内／編集後記 | |

明けましておめでとうございます

国立病院機構 鈴鹿病院長 小長谷 正明

今年は新しい鈴鹿病院の元年です。病院長になってから8回目の正月ですが、毎年々々思っていたこの言葉を、やっと口にすることができました。21世紀に相応しい療養環境が整い始めてきました。

なんとといっても、新しい中央病棟の落成と、そこでの入院患者のみな様のつつがない安らかな療養のスタートです。新病棟は患者さんも職員も含めて、当病院関係者の長年の望みでしたが、もう、夢でもなんでもありません。

さらに、病院の整備は病棟ばかりではなく、人材を集め、研鑽に励んで活躍してもらわなければなりません。人材充実の努力と同時に、医者や看護師などの医療従事者に魅力的な病院にしていく必要があります。鈴鹿病院が担っているような政策医療、神経筋疾患や重症心身障害の医療分野は、それはそれで専門性にすぐれたエキスパートの活躍の場です。働きやすい環境を整えましょう。看護師さん達の宿舎や更衣棟などの新築や整備もすぐ手を付けなければいけないことです。そして、なによりも、病院のイメージそのものである、外来診療棟の新築と医療機器の整備です。明るく機能的な外来や検査室にし、遅れているハード面も、当院の臨床内容と方向性にあった医療機器の充実や、電子カルテなどのIT化などで、業務の流れもスムーズいくようにしなければなりません。これについては、今いろいろと思いを巡らし、準備を進めているところです。私の初夢は素晴らしい完成予想図が脳裏に浮かびました。なるべく早く、現実に見える形にしたいと思います。このように、なんとしても、よりよい障害者医療の場をつくると同時に、地域に信頼される病院にも脱皮していく必要があると思っています。

しかし、当面の夢が正夢になった今、まずしなければいけないことは、併せて240人もの重症度の高い患者さんの引っ越しです。そのうち90人は人工呼吸器を装着されていますし、病状の重い方もいます。医療体制を損なうことなく、安全で、かつ、円滑な引っ越しをしなければなりません。家庭での引っ越しのように、その晩はホテルに泊まってという具合にではなく、夕方には当たり前のようにして前日同じ医療が出来なければいけないのです。もちろん、この鈴鹿病院ではかつてなかった事業ですので、周到なプランを練っています。入院中の患者さんやご家族は、是非、ご協力をして下さい。また、外来の患者さんや周囲の方々も、見守って下さるとありがたいです。

引っ越し後は、現在の筋ジス3個病棟と、重症心身障害児(者)病棟3個病棟を、夫々60床の2個病棟ずつに再編することになります。病棟での日課や業務の流れ、配置などがどうなるかも、患者さんも職員も気になるところだと思います。それについても、いろいろな場合を考えています。新病棟の体制が落ちつくまでは、様々な問題が出てくるかもしれませんが、その都度よい病院運営が出来るように修正しながらやっていこうと思っています。

ともあれ、新しい鈴鹿病院の元年です。元気に行きましょう。改めて、本年もよろしく願い申し上げます。

トピックス①

院内保育所のご紹介

共済係 北村 一美

皆さんこんにちは。今回は鈴鹿病院内にあります、こぼと保育所を紹介したいと思います。

当院で働く子育て中のママさん職員にはなくてはならない保育所として、こぼと保育所が1972年に設立されました。2004年にはビジョン株式会社に委託され、現在は園児13名、保育士5名(12月1日現在)で運営されています。

昨年に比べると園児の人数も増え、ととにもぎやかな園内ですが、世相の反映か0歳児からの預け入れも増え、保育士も慌ただしい毎日をおくっています。

園内では異年齢児保育ならではの大きな子が小さい子をいたわり、小さい子は大きい子のやることを見て頑張っって真似ようとする…。そんな家庭的な雰囲気の中で子供たちは過ごしています。

では、園児の1日を紹介したいと思います。

朝は子供たちの元気な声とともに1日が始まり、主に戸外遊びを中心に園庭で遊び天気の良い日は時々遠出をして近くの公園まで散歩をしています。

行事が近くなると歌やリズムダンスの練習や行事製作などを行い楽しく活動しています。また食育活動として芋掘り、手作りクッキー、月見団子、親子クッキングなどの体験や親子参加行事として夏祭り、親子遠足、クリスマス会があり親子でのふれあいを深める行事にも取り組んでいます。

今後も、職員から「是非、子供を預けたい」と、いっていただける保育所になれるよう、保育所職員はじめ父兄が協力していきたいと思ひます。



トピックス②

塩田賞・ベストポスター賞を受賞しました!!!

平成21年10月23、24日に開催された第63回国立病院総合医学会(仙台)で、鈴鹿病院の研究発表が、すぐれた論文に与えられる塩田賞と、優秀な研究発表に与えられるベストポスター賞を受賞しました。

●塩田賞

「筋強直性ジストロフィーの安静時エネルギー代謝量の検討」

- 宮崎 とし子 (主任栄養士(現:国立病院機構 榊原病院 栄養管理室長))
- 池田 薫 (主任栄養士)
- 北條 恵美 (栄養士)
- 久留 聡 (神経内科部長)
- 小長谷 正明 (病院長)



●ベストポスター賞

「パーキンソン病の突進現象に対する歩行訓練の試み -SRCウォーカーを用いて-」

- 山本 華奈美 (理学療法士)
- 伊藤 博紹 (理学療法士)
- 白石 弘樹 (運動療法主任)
- 田中 信彦 (リハビリテーション科医長)
- 酒井 素子 (神経内科医長)
- 小長谷 正明 (病院長)



「筋ジス患者の意欲を高める療育活動 -朗読療育を取り入れて-」

- 岡田 環 (保育士)
- 中澤 曜 (保育士)
- 篠原 麻綾 (児童指導員)
- 馬田 光代 (主任保育士)
- 愛田 弘美 (療育指導室長)
- 櫻井 賀奈恵 (看護師長)
- 久留 聡 (神経内科部長)
- 小長谷 正明 (病院長)



看護だより

7病棟の紹介

看護師長 林 みどり
副看護師長 稲垣 根子
副看護師長 堀越 あゆみ



新年おめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
はじめに、当病棟の近況を紹介します。

新病棟の敷地となる7病棟は、新病棟建て替え
工事に伴い、平成20年12月に休棟中の旧6病
棟を改修し移転しました。患者様の環境で、大き
く変化したことは、エレベートバスによる入浴で
す。当院の重症心身障害児(者)病棟では、はじめ
て、このバスを使用することとなり、職員をはじめ
、ご家族の皆様も不安でした。最も心配したこ

とは、患者様が、入浴時ベルトで固定されることに嫌がらないか、電動で動くことに驚かないか
ということでした。しかし、今では、一人ずつ安全に湯船にゆったりと入ることができ、バブルバ
スを楽しみにしている患者様も見えます。さらに、呼吸器や酸素の必要な患者様も安楽に、安
心して入浴できるようになりました。

新病棟は、もうすぐできます。もう一度移転となりますが、今以上に良い環境で患者様が過ご
すことができると楽しみにしています。

次に、当病棟で取り組んでいることを紹介します。

当病棟の呼吸器は重症の小児から成人まで対応でき、精度の高いベラという呼吸器を導入
しています。ベラは呼吸状態が画面にでるためわかりやすく、異常の早期発見ができます。ス
タッフ全員呼吸管理がしっかりできるように、学習会の開催等を行っています。

さらに、呼吸器装着患者様には、排痰を促したり腹部膨満感の軽減をはかったりリラックスが
得られるように腹臥位を積極的に取り入れています。腎結石のある患者様では、腹臥位を取り
入れたことで、砂状のものの排出を認めました。腹臥位時には観察を密にして呼吸状態を確認
することが重要ですが、今後も良い看護が提供できるように色々なことに挑戦して行きたいと
思います。

新病棟への移転も目前となり、患者様が安全・
安楽に無事に移転できるよう努力して行きたいと
思います。



3病棟における「朗読療育」の取り組み

保育士 岡田 環

3病棟には18歳から84歳の筋ジストロフィーと神経難病の患者さんが入院されています。幅広い年齢層の患者さんに満足してもらえる療育は、なかなか難しいですが、今回は年齢、性別、病状に関係なく楽しめる朗読療育を紹介します。朗読には、脳を活性化させる以外に心身を活性化させ癒しの効果があるといわれています。

現在3病棟では、ベッドサイドで個別に朗読を聞く朗読療育と集団療育のなかで患者さん自身が朗読を行う朗読療育を行っています。

ベッドサイドでは呼吸器装着や気管切開など医療ケアを必要とし、ベッドから離れて療育を行う事が難しい患者さんが中心です。ひとりひとりの好みに合わせ絵本、童話、昔話などから選んで朗読を行っています。反応の捉えにくい患者さんが絵本を目で追ったり、声の方向に視線を向けたり、涙を流すなどいろいろな表情、感情がみられるようになりました。

集団療育の朗読は、患者さんが自主的に本を選び物語をパートで分担し朗読したり、自分たちの作った作文を発表したりしています。「大きい声を出して気持ちよかった」「なんだか自信がわいてきた」「他の人の朗読を聴いてやさしい気持ちになった」など患者さんの生の声から充実感や満足感、仲間意識や思いやりの気持ちも高まってきているのを感じました。

これからも患者さんがリラックスして楽しめる、そして心に響く療育を提供していきたいと思います。



平成オタクコラム～国際学会編～

昨年の10月に、タイのバンコクで行われた第19回世界神経学会に参加したのでその報告をします。日頃はノンビリとおタッキーな生活を送っている僕ですが、どういふ風の吹き回しか、一念発起して国際学会に行こうと思い立ったのが昨年の春。参加登録と抄録提出したまではよかったが、だんだんと不安はいや増すばかり。何しろ国際学会は4年ぶりで2回目。その間プライベートでも海外旅行などしたことが無い。本当なら、うまく発表できるか、英語で質疑応答ができるのかを心配すべきなのだが、それ以前にパスポートの期限は大丈夫か、両替はどこでやればいいのか、ちゃんとホテルまでたどり着けるかとつまらんことばかり気になる。大きな不安と緊張と、少しばかりの期待を胸に旅にでた。セントレアから台北経由で約6時間、なんとか無事バンコクにたどり着いた。暑い! とにかく市内は

筋ジストロフィー登録システムRemudyについて

(レムディ)

神経内科部長 久留 聡

みなさん、もう“Remudy”のことは御存知でしょうか？ 昨年7月から始まった筋ジストロフィーの登録システムのことです。Registration of muscular dystrophyの頭文字をつなげてこの名前となりました。なぜ今この登録システムが立ち上がったのかについての経緯を説明致します。

筋ジストロフィーとは、おもに骨格筋が進行性に障害される遺伝性の疾患の総称です。今から20年以上前は、原因も治療法も全くわからない難病でした。1987年にKunkel先生が、デュシェンヌ型およびベッカー型筋ジストロフィーの原因となる遺伝子を見つけ、ジストロフィンと命名しました。この世紀の発見以降、次々にいろんなタイプの筋ジストロフィーの原因遺伝子が見つめられ、今では一部の筋ジストロフィーを除いて、ほとんどの原因遺伝子が判明しています。原因の次は当然治療です。最近ようやく効果が期待できそうなくつかの治療法が開発されてきました。新聞報道などでもご覧になっているかも知れません。しかし、これはまだ動物モデルの段階の話です。実際に新たな治療法や薬が承認されるためには、ヒトに対する臨床試験が必須であり、効果や安全性が確認されなければなりません。筋ジストロフィーに対する治療法についても例外ではありません。しかし、筋ジストロフィーは比較的稀な疾患であり、臨床試験を行うのに必要な症例数を集めるのは容易なことではありません。そこで筋ジストロフィーの全国的なデータベースを作ろうということになり、筋ジストロフィーの臨床研究班(川井班)が中心となってこのRemudyを立ち上げました。筆者も班員のひとりです。Remudyの大きな特徴は、遺伝情報を含むデータベースであるということです。遺伝子治療の中には、特定の変異を標的とするものがあり、そうした治療の臨床試験に際しては、対象となる遺伝子変異を有する例をリクルートできなければならないからです。

少し難しい話になりましたが、それでは実際にRemudyに登録するためにはどうしたらよいのでしょうか？ Remudyに登録できるのは、デュシェンヌ型およびベッカー型筋ジストロフィーの患者さんです。インターネットをお持ちの方はRemudyのサイト(<http://www.remudy.jp/>)にアクセスしてください。詳しい情報が掲載されており、登録に必要な書類もダウンロードすることができます。つぎに医療機関を受診して主治医と協力して書類を完成させ、書留で事務局宛に郵送してください。インターネットをお持ちでない方も、当院に来ていただければ必要書類一式をお渡しすることができます。必ずしも登録すればすぐに臨床試験や治療を受けられるという訳ではありません。しかし、治療へつながる第一歩であることは確かです。是非皆様の御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

人が多い。大きな道路の両側にはびっしりと屋台が軒をならべ、活気に充ち溢れている。オタクで草食系な僕はただただ圧倒されるばかりでありました。1日目はホテル到着後すぐ就寝。2日目いよいよ学会。いろんなお国なまりの英語が飛び交うが、ネイティブが早口でしゃべるとほとんど理解不能。もっと英語を勉強しなければ…。3日目ポスターで演題発表。3人から質問あり。こちらの英語能力を察してか割とゆっくと話しくて助かった。しかし外人さんと話すのは緊張する。つくづく田舎者だと実感。その後青森病院の高田先生と夜のバンコクへ繰り出す。4日目の午後半日バンコクの市内観光。仏教国タイの金ピカの仏像や寺院を堪能する。あとはお土産をたくさん買って帰るだけ。案ずるより産むがやすし。大満足の国際学会タイ旅行でした。

(神経内科部長 久留 聡)

外来診察担当表 (2010年1月1日 現在)

	月	火	水	木	金
神経内科	小長谷	酒井	松本	小長谷	久留
内臓器科 (循環器科)	奥村 (循環器)	木村	安間 (循環器)	安間 (循環器)	野口(雅)
小児科	予約	予約	予約	予約	予約
整形外科		田中(信) 午後(装具)			田中(信)
リハビリテーション科					田中(信)
歯科	野口(佳)		松村	田中(宏)	
皮膚科		武市			

- ◆ 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診とします。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三交バス(荒神山行き/椿大神社行き)
「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

◆ 発行

平成22年1月
 独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院
 〒513-8501
 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号
 Tel. 059-378-1321(代)
 Fax. 059-378-7083
<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

新しい年が明けました。新病棟のきれいなピンク色の外壁が見え、新しい鈴鹿病院が目の前に近づいています。これからの鈴鹿病院も「鈴鹿の風」でお伝えしたいと思います。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

(横山尚子)